常木：アレッポ周辺では、「持ち送り」式のクッベがかつて多く見られたが、その系譜としてキルンの構造があると思う。したがって、かなり遡れると思うが。

岡田：住宅としては「持ち送り」はそこまで古くは遡れない。考古学上この構造をここまで遡れるかどうか。そういうプランをもつ住居はあるのか？

常木：ハラフにある。

岡田：それとクッベをつなぐものは？

常木：かなりいろいろ遡れると思う。住居、倉庫、炊事場など、機能はいろいろある。

岡田：基部が方形である場合、上にドームを構築するにはテクニックが必要になる。

常木：しかし、1mくらい壁を積んでから、その上にドームを構築すればよいのではないか。それならそんなに困難ではない。

岡田：日干し煉瓦は丈夫なものか？

常木：丈夫なものを使っている。

藤井:レジュメに「部族という社会単位が透けて見えてくるのではないかと期待するのである。」とあるが、本当に透けて見えるのか？そもそもどういう意味なのか？

岡田：日本の穴太衆の石工集団などの事例に類似する集団がいたのかどうかということ。レサッファとドゥラ・ユーロポスは時代差はあまりないが、建築工法に大きな違いがみられる当時の権力者が技術者集団とを招聘して建設したのかもしれない。ともかく多くの遺跡、建築を実見する必要がある。

西秋：ギリシア･ローマの文献に、そうした工人集団に関する記載が、古ければ古いほどよいが、あるのかどうか？

岡田：ダレイオス大王がバビロニアの工人集団に命令、委託した記事がよく知られている。逆にわからないので聞きたいのだが、部族とはファミリーより大きな集団で、地縁だという理解でよいか。

藤井：架空であれ、実態であれ、血縁を基礎とした人間集団であろう。

西秋：公共建築を議論しているのか、一般建築を議論しているのか。

岡田：一つの建築術が一つの部族に継承されるというのはかなり正しいと思う。たとえば、日本の宮大工は意図的に技術継承を行ってきた。

藤井：「部族」はそれをするには人数が少ないと思うが。大都市にある大建築物は各地からいろいろ集めて作っているわけで、名も無い、未だ検討されていない建築物を研究対象として利用すべきではないのか。岡田さんの言う、「ファミリー」とはどういうことか。

岡田：「ファミリー」とは、全くの血縁集団である。

藤井：今日の発表では大都市の大建築で有名な建物ばかりだったが、もっと未知の新資料で話はつくれないのか？遊牧民の建築など。

岡田：それができればそれがよい。

藤井：現代遊牧民は、小さな氏族単位で一見同じにみえる遊牧民のテントの作り方でも、それぞれを見分けているという事実がある。

石田：部族を超えた技術集団なのか。

藤井：組積構造は立派な構造物ばかり。ビシュリ山系にみられるシスト墓のような石組、石室構造について議論はできないだろうか？

岡田：やはり西シリア、地中海地域の石造建築のような遺存状態のよいものがないとしっかりとした建築学的な議論はできない。

藤井：遊牧民の「冴えない」建物、構造物も、できれば、やっていただきたい。

深見：主にイスラーム建築を専門にして、これまで建築物に部族や部族性を考えたり投射したりしたことがないので不安だが・・。